

石巻宣教支援会 報告

～東北をキリストへ～



2020年9月 VOL. 15

石巻宣教支援会

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇 103:2)

いつも石巻宣教のためのご支援とお祈りをいただき、心から感謝いたします。

祈り続けていた新しい教会車が与えられました。感謝してご報告します。

甚大な被害とたくさんの尊い命が失われた東日本大震災の被災地石巻に、石巻宣教ミニストリーの働きとして、石巻福音自由教会の会堂建築が始まったのは、2014年でした。

その同時期に、仙台教会のN兄から車が献げられ、支援活動や会堂建築はもとより、2016年4月に我々が石巻に来てからは毎日のように、この渡波を走り続けてくれました。礼拝、コンサート、イースターフェスティバル、夏祭り、クリスマスなど様々な集会の送迎を行い、実に多くの方々を教会にお連れすることが出来ました。今年は新型コロナウイルスの影響で、たくさんの方々をお招きするすべての集会は中止になってしまいましたが、毎週の礼拝、月2回のお茶っこ会、訪問、時に病院の送迎や買い物の助けなどに走り続けてくれました。今回与えられた車は、7人乗りですがワゴン車と違い、ご高齢の方々の乗降にも問題はありません。何よりも細い道が入りくんでいるこの地域での送迎に最適です。神さまに心から感謝します。お祈りありがとうございました。



教会車-1号 ヴィッツ車

[N兄からの献車…2014年から大活躍]



教会車-2号 シェンタ車

[2020年9月…諸教会からの献金で与えられる]

🌸震災から9年半が過ぎ去り、最近、支援活動を通して知り合った方々の訃報をあちこちで耳にするようになりました。60代であった方は70代に、70代の方は80代に、そして90歳を超えられた方々もおられることを思うと、時の流れを感じずにはられません。

皆さん無我夢中で震災を乗り越え、平穏な生活を取り戻した今、改めて体の衰えと寂しさを感じておられるように思います。

Sさんというお一人暮らしの80代のご婦人の出身は女川の小さな島でした。その昔、その島にR会の方が布教に来て、ほとんどの島民が家族で入信したのだそうです。その方も年会費だけはきちんと納め続ける会員でした。しかし、お盆やお彼岸は亡くなられたご主人のお墓がある菩提寺で供養をされ、地元の神社にも事あるごとにお参りをする、という暮らしをしてこられました。仮設での支援活動に参加され、生まれて初めてキリスト教にふれたこのご婦人と親しくなり、復興住宅に入居されたあと、教会の集会に出席されるようになりました。ご自宅を訪問した折々に老人用伝道ファイルを用いてイエスさまを伝えてきましたが、ある時「困ったことになったよ～来てけらいん」と電話がありました。行ってみると、処方されたばかりの薬をゴミに出してしまった、というのです。その朝がゴミ収集日で、病院へはゴミ出しの後に行ったと分かり「イエスさまはどこに薬があるのかご存知だから」と、手を取り合ってお祈りし、搜索を開始。すると真新しいお菓子の空き缶にきちんと分けられた薬が見つかりました。「イエスさま、ありがとう！」と満面の笑み、そして、「キリストさんは本当にいるんだね～」と。

それからほどなくして、「是非、私も天国に行きたい」と、イエス様を罪からの救い主として信じるお祈りをされました。しかしその後、親族間のトラブルや病気、ケガが続き、弟や妹に「姉ちゃんが、たくさんの神様さ持ち込んでっから神様どうしが喧嘩してんだ」と言われたそうです。「そういうわけだから、もうキリストには行かない」と言われた時には本当にかっかりし、無力感に襲われました。さらにコロナ禍の中で訪問も難しくなり、祈るばかりの日々でした。

そして突然の訃報が届いたのです。しかし、Sさんがはっきりと「イエス様を信じます」と告白したことは事実であり、天の御国に行かれた、と私たちは信じて神の御手の中にお委ねしました。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」(Ⅱテモテ4:2)

◆現在石巻教会で毎月1回持たれているクラフト教室は2012年に女川バイパス仮設で米国福音自由教会のギルバート宣教師夫妻、ロング宣教師夫妻たちが始められた教室を仙台教会が引き継ぎ、さらに仮設閉鎖時に場所を石巻教会に移した支援活動の働きです。

女川バイパス仮設は教会から車で15分のバイパス道路沿いに建設された東西に長く続く仮設でしたが、実はこの働きが開始される以前の2012年、5月の連休に蕨教会の支援チームが、物資配布支援の活動をされた場所でもありました。宣教師夫妻たちは勿論、私たちも、後になってこの事実を知った時には驚きとともに神様の御手を覚えずにはられませんでした。

また、この教室に来たご婦人を通して、女川の尾浦浜に関西、関東、仙台教会の夏の支援活動も導かれていきました。ここで繋がった関係は現在も続き、例年夏祭りの翌日には、尾浦の方々を忠実に訪問される川越教会チームと一緒に私たちも同行させていただいていました(今年は中止)。

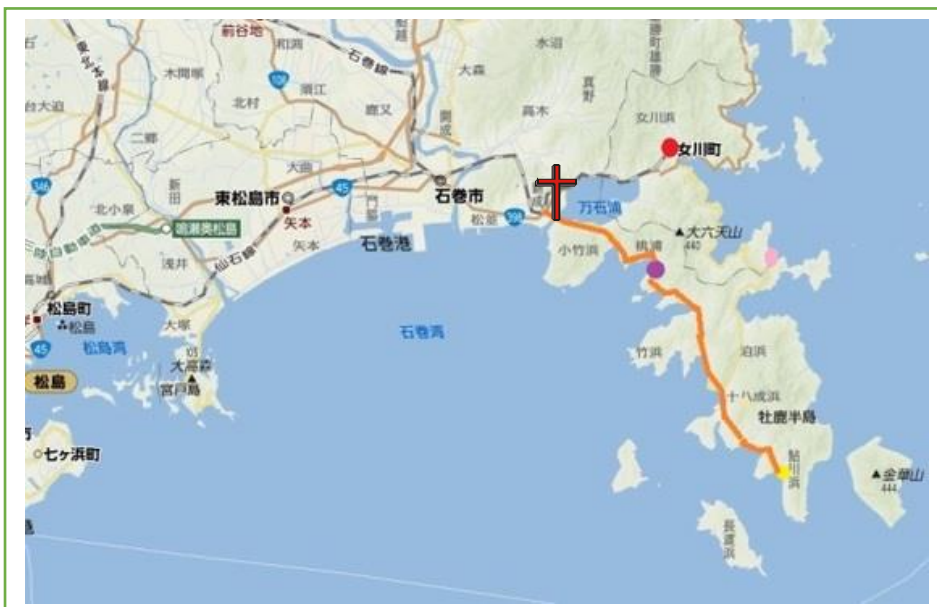
高台に家を再建し、銀鮭の養殖も順調な皆さんですが、あの大変な時の支援を今も覚えておられ、一昨年のも、突然の訪問に驚きながら、「あれー！今朝こそ、あんときの夢をみて、みんなどうしてっかな…って思いだしてたんだ～」と、心から喜んでくださる姿に、神様のくださった出会いをつなぎ、神の愛を届け続けていく働きの重要性を覚えました。

ところで、石巻教会で毎月開かれるこの教室は、仙台教会のパッチワーク教室の存在が大きな力となっています。ご自分の作品を作り続けてこられたメンバーの方々が、今度は被災地の方々のために毎回の準備に励んでくださっているのです。そして、当日は5～6名のメンバーが来てくださり、製作の助けをしてくださっています。布を裁断し、印を付け、糸や小物を揃え、袋詰めする事前準備だけではなく、教える側になるために皆さん、同じ教材で前もって体験されます。当日は朝8時過ぎに仙台教会に集合し石巻に向かいます。その中のKさんは女川の被災者の方で、仮設の教室にいられていました。仙台の娘さん一家との同居で仮設から引っ越されたのですが、知り合いのいない仙台で仙台教会のパッチワーク教室に出席されるようになり、今では毎回仙台チームの一員としていられています。毎回仮設で苦楽を共にされた女川の方々と時間を楽しんでおられます。

チャペルタイムで仙台教会の吉田牧師夫人が語られるのは、様々なクリスチャンの証しです。

「へえー！この人もキリストなの～」と驚きの声が漏れる身近な企業の創設者や著名な方だけではなく、人々にキリストの愛を注ぎ続けながらも知られざる方など、毎回感動の証しを神様は導き用意してくださいます。皆さんその証しとみことばのプリントを大切に持ち帰られています。

昨年夏祭りに来られた地元渡波の3名のご婦人、また牡鹿半島でⅡ期目の宣教に労されており、今年5月から共に礼拝をささげているセンド国際宣教団の藤嶋宣教師夫人と小湊浜のご婦人、さらにご近所の「お茶っこ会」のメンバーお二人も集まれるようになりました。楽しく手を動かしながらのおしゃべりは笑い声ばかりではありません、9年に渡る長いお付き合いで育まれた信頼関係の中では、心に溜まった痛みや心配事を吐き出されることもあります。「うん、うん」とうなずきながら耳を傾け、イエス様に聞いていただきます。帰り際には、笑顔で「また、来月ね～」とお別れする皆さんがイエス様にある希望を受け取られますように。



【祈りの課題】

1. 主が、まことの神を求めの方々を起こして下さり、礼拝につながりますように。
2. イエス・キリストを信じ、救われ、洗礼を受ける方が起こされますように。
3. 月二回、第一と第三金曜日の「お茶っこ会」と月一回の「クラフト教室」が、主に用いられ、救われる魂が起こされますように。
4. 新型コロナウイルス感染から教会、地域の方々が守られますように。

☆石巻宣教支援会へのご支援と、お祈りを心から感謝します。